

長崎市内の土木遺産めぐり [11/27(日)]

テーマ：日本のインフラ技術をリードした港湾と水道に関する土木遺産をめぐる

鎖国時代に唯一世界に開かれた海港都市であり、開港後にいち早く西洋技術を取り入れてインフラ整備をおこなった長崎には、日本初のものや、日本のインフラ技術をリードした土木遺産が多く残されています。今回のツアーでは、そのうち外国船の来航によって対応を迫られることになった港湾関係の土木遺産と水道関係の土木遺産を中心にめぐり、日本に導入された近代土木技術の原点に触れました。

長崎駅

↓バス

1. 南山手居留地



南山手居留地
石畳や側溝の特徴(水の集められ方)、洋館群(跡)など。

↓バス

2. 小菅修船場跡



小菅修船場跡
修船場建設の経緯や修船場跡の特徴など。

↓バス

3. 小ヶ倉ダム



小ヶ倉ダム
ダム建設の経緯や当時は日本一の堤体高さを誇ったことなど。

↓バス

昼食

↓徒歩

4. 中島川変流工事護岸・出島橋



中島川変流工事護岸・出島橋
中島川河口の土砂堆積を受けた明治期の流路変更工事や出島橋は日本最古の現役道路鉄橋であることなど。

↓バス

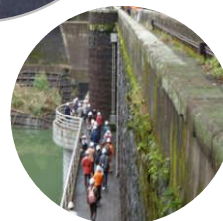
5. 本河内高部ダム



本河内高部ダム
建設の経緯や日本初の水道用ダムであること、正面に意匠を凝らした階段が配置されていることなど。

↓バス

6. 本河内低部ダム



本河内低部ダム
ダム建設の経緯や、洪水調節ダムへの変更のこと、また日本初といわれる鉄筋コンクリート橋のことなど。

↓バス

長崎駅